

大会宣言（案） の案

令和三年一月に中央教育審議会答申として示された「令和の日本型学校教育」の在り方として、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきた今日、一人一人の児童が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようその資質・能力を育成することが求められている。その目指す姿として、「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」が掲げられており、特に「協働的な学び」については、「同一学年・学級はもとより、異学年間の学びや他の学校の子供との学び合いなども含むものである。知・徳・体を一体で育む『日本型学校教育』のよさを生かし、学校行事や児童会（生徒会）活動等を含め学校における様々な活動の中で異学年間の交流の機会を充実することで、子供が自らのこれまでの成長を振り返り、将来への展望を培うとともに、自己肯定感を育むなどの取組も大切である。」とあり、学校行事、特別活動の重要性が明記されている。

特別活動は、三つの視点「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」に基づいて目標の達成を目指しており、「令和の日本型学校教育」の中核ともいえるべき役割を担っているが、その中で学校行事は、全校や学年などの大きな集団の中で、多様な他者と協働し、合意形成を図りながら協力して取り組むことを通して、集団への所属感や連帯感を高め、よりよい生活を作ろうとする態度や自他の尊厳を重んじる態度などを養う大切な活動である。

これらの背景を踏まえ、本大会では、研究主題を「多様な他者と協働して、楽しく豊かな生活をつくる、これからの学校行事の創造」、副主題を「ウェルビーイングの深化を目指して」とした。学校行事ならではの仲間体験、本物体験、感動体験を通して、子供たちが自主的、実践的に取り組み、集団の中での役割を果たしながら協働することで、楽しく、豊かな生活を自らの力でつくり上げる達成感、満足感を味わうこと、その過程において、子供たちと、その成長を支える全ての人たちのウェルビーイングの深化が図られることを目指し、これからの学校行事の在り方について共に語り合う場となることを期して、大会宣言とする。

令和六年八月六日

第五十八回小学校学校行事研究全国大会東京大会